

自尊心と自制心をもって勉強に励もう

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：勉強するときの心構えとして大切なことは何ですか。

A：自尊心と自制心をもって勉強に励むことです。

Q：自尊心とは何ですか。

A：自尊心とは、プライドのことです。自尊心をもって勉強するとは、やればできるというプライドをもって勉強することです。

Q：自制心とは何ですか。

A：自律的に行動することです。自分自身を律しながら行動することです。

Q：なぜ勉強するときには自尊心と自制心が必要なのですか。

A：自分には難しくてできない、だめだとあきらめたら、勉強は一步も進みません。また、場当たり、思いつきであれもこれもと手を付け、やるべきことを絞り込まなければ、勉強はいつまでたっても終わりません。「ビリギャル」をお手本にして、よくわからないところまで^{さかのぼ}遡ること。これができるかどうか、運命の分かれ道です。

Q：自尊心(プライド)と自制心があると、高2生が中1の英語をやったり、日本史をマンガで勉強したりするようなことは恥ずかしくてできないのではないですか。

A：自分に自信をもって、やればできるというのが自尊心であり、プライドです。高2の英語や日本史をあれもこれもと勉強するのではなく、勉強する対象を中1の英語やマンガ日本史に絞り込むのは「自制心」と「自律心」のあらわれです。

高2生が本気で中1の英語に取り組めば、1週間で終わります。中2の英語は2週間、中3の英語は3週間、高1の英語は4週間で終わります。

高2生が本気でマンガ日本史で勉強し始めると、1週間で1回目を読み終えることができます。成績は勉強した回数で決まりますので、日本史の偏差値を10上げたければ10回、20上げたければ20回、本気でマンガ日本史を読みましょう。どんな難しいことでも、やればいつかはできるという「自尊心」(プライド)と、あれもこれもではなく、これだけは何が何でも終わらせるぞという「自制心」さえあれば、必ず一定の成果が出るのが勉強です。

Q：なぜそんなことが言えるのですか。世の中には優秀な人がたくさんいるのではないですか。入学試験には競争相手がたくさんいるのではないですか。

A：はじめから優秀な人などいません。優秀な人は、コツコツと努力を積み上げてきたから優秀になったのです。

また、試験には競争があるといわれていますが、入学試験での本当の競争相手は自分自身です。自分自身に打ち勝つことができれば、入学試験に必ず合格できます。

Q：では、お聞きします。今勉強している内容が全然わからない場合はどうしたらよいのですか。

A：答えは簡単です。よくわからないところまで遡ればよいのです。

皆様は、「ビリギャル」という映画を観たことがありますか。同名の小説を読んだことがありますか。まだ観たことや読んだことがない人は、ぜひ映画を観賞し、小説を読んでみてください。とても参考になります。

「ビリギャル」は、高2生まで全くといってよいほど勉強したことのない主人公が、慶應義塾大学の文学部を目指して受験勉強を始め、最終的には慶應義塾大学の総合政策学部(藤沢キャンパス)に合格を果たした実話です。

高2生まで英語を全く勉強してこなかった主人公は、中1の英語から勉強をスタートし、1年余りで偏差値を70以上にしました。日本史も全く勉強してこなかったので、マンガ日本史を何十回も読み、基礎力を身に着けました。高2生まで全く読んだことの無い新聞を毎日読み、全くしたことのない読書にも励み、長い入試問題を最後まで正確に読み込む読解力と、論文試験の基礎となる論理的思考能力を身に着けました。勉強する対象をひたすら読めばよいのです。何十回も読み返し、スミからスミまで頭に入れば、大学センター試験で平均点が取れます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：自分はやればできるという「自尊心」(プライド)と、やるべきことを自分で決めて最後までやり抜くという「自制心」(自律的行動能力)を身に着け、勉強に励んでください。「自己責任」「自助努力」「あきらめたらおしまい」の精神で、「自分の未来は自分で切り開く」ことを心掛けてください。

2017年4月3日(月)

(宇都宮大学大学院工学研究所客員教授)